

かみしなのかにかわ

## 上品野蟹川遺跡

所在地	瀬戸市上品野町地内
調査理由	国道 363 号道路建設
調査期間	平成 14 年 8 月、平成 15 年 1 月～3 月
調査面積	1,809 m <sup>2</sup>
担当者	藤岡幹根・酒井俊彦



調査地点 (1/2.5 万「多治見」)

**調査の経過** 調査は、国道 363 号道路建設に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。これまでに（財）瀬戸市埋蔵文化財センターが平成 7 年度と同 11 年年度に調査を行い、本センターは、平成 11～13 年度に遺跡範囲の西部において計 8550 m<sup>2</sup>の調査を実施した。今年度は、遺跡範囲西部において昨年度の調査区の南側に A 区、遺跡範囲東端より B・C 区を設定して調査を行った。昨年度までの調査によって主な遺構として平安時代の竪穴住居址 1 棟と同時期の土坑および自然河道などが検出され、遺物としては旧石器時代から戦国時代の遺物が出土した。

**立地と環境** 遺跡は瀬戸市北東部の山地間にある谷地形の低地部に立地し、谷地形内に流れる蟹川の両岸に遺跡範囲が広がる。標高は、約 180m を測る。調査範囲の大部分は近年まで水田であり、今年度調査区の一部は農業用の溜池であった。遺跡東側の山地上には中世城館の桑下城跡が、南方 0.5km には本センターが調査した旧石器時代から近世かけての複合遺跡である上品野遺跡が存在する。

調査は、昨年度の調査区 01A 区と 01B 区の南に接する部分に A 区 (200 m<sup>2</sup>)、遺跡範囲東端より西へ連続して B 区と C 区 (計 1609 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。

**調査の概要** A 区は、蟹川右岸の谷地形の中央部に位置する。基本層序は現水田耕作土下の黒色土の包含層を挟んで、基盤である河川性の堆積物の砂礫層となる。耕作土下部の包含層中より少量の中世の灰釉系陶器 (山茶碗) が検出された。

B・C 区は、蟹川左岸の山地斜面から谷地形の低地部分に位置する。基盤は山地斜は粘土層を基本とする洪積層であり、低地部分は扇状地の砂礫層である。低地部分は近世以降の耕作土下に戦国時代までの湿地性の堆積土層が存在し、一部土石流による礫層および河川性の砂層を挟んで扇状地の砂礫層に達する。遺物としては山地斜面上の包含層中より、中世の灰釉系陶器 (山茶碗)、中世末の瀬戸窯産施釉陶器類と常滑窯産陶器が少量検出された。湿地性の堆積層からは 8 世紀代の須恵器杯身・蓋、13 世紀代の灰釉系陶器 (山茶碗)、中世末の瀬戸窯産施釉陶器類及び土師器鍋が少量出土した。B 区の山地斜面に接する部分の湿地性の堆積層からは伐採された自然木、板材、小形の曲物などが出土し、若干の杭が打ち込まれた状態で検出された。また、これらに混じって拳大よりやや大きめの礫が集中して出土した。遺物は摩耗しておらず、調査区に接する山地の尾根上にこの時期の集落が存在することが考えられる。また、加工された木材が出土していることからこれに関連する作業場の存在も想定することができる。今後は B・C 区の出土遺物と隣接する山地頂上の桑下城跡との関連が検討課題になるものと考えられる。(酒井俊彦)



02B 区全景 (東より)



02B 区自然木切断面



02B 区遺物出土状況



02B 区出土墨書土器



02B 区遺物出土状況